

平成 24 年度 第 2 回昭島市環境審議会
会議録（要旨）

〔開催日時〕 平成 24 年 12 月 19 日（水） 19：00～21：00

〔開催場所〕 昭島市役所 3 階庁議室

〔出席者〕

- 1 委員： 椎名会長、嶽山副会長、川勝委員、椎名（裕）委員、高垣委員、長瀬委員、久富委員、降旗委員、馬瀬委員
- 2 事務局： 村野環境部長、山口環境課長、岩波係長、吉村係長、加藤主査、秋山主任
- 3 傍聴者： なし

〔議事要旨〕

- 1 開会
- 2 議題
 - （１）「昭島市の環境」について
 - （２）第三次昭島市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）（素案）について
- 3 その他
 - （１）地下水保全について
 - （２）次回日程について
- 4 閉会

〔配布資料〕

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 資料 1 | 「昭島市の環境」について |
| 資料 2 | 「第三次昭島市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）（素案）」の策定について |
| 資料 3 | 昭島市周辺地下水流動調査報告書 |
| 資料 4 | エコプロダクツ 2012 に参加しました |

〔発言要旨〕

（１）「昭島市の環境」について

馬瀬委員：P32 の所で、武蔵野小学校に太陽光発電を導入したとのことであるが、その効果と、今後の導入予定を教えてほしい。

事務局：武蔵野小学校には 10kW を導入。発電量等をモニターで見られる形とし、環境教育に活かしている。順次、他の小学校にも導入を予定しており、予算要求をしている所である。

川勝委員：武蔵野小学校のどこに太陽光パネルを設置したのか。

事務局：校舎の屋上に設置した。

川勝委員：先日、環境カウンセラーの研修を受けてきたが、太陽光発電の必要性はあると思うが、メガソーラーのような企業が大規模に進めるものは、森林伐採に繋がり環境に悪い影響もある。また、買取システムの問題について、売電による設置者への利益のバック

があるかもしれないが、それは他の人の莫大な電気料負担で賄われている。日本では、明確な方向性がないままで、1kW 当たり 42 円の買取価格で固定されているが、諸外国では破綻している状況もある。太陽光発電は、まだまだ万全なものではないという認識も必要である。

また、拝島分水について、生活の利便性等から、ほとんどが暗渠になっている。その場所が分からない状況もある。開渠になっていて水の流れがあれば、それだけで涼しい、そういった面も考えていただきたい。また、緑についても、自然のままの樹木だと、落葉の問題、日陰の問題があり、管理された緑が求められていると思う。公園の樹木についても極端なせん定が行われていると聞く。予算等の関係もあるのか、1 回やれば 5～6 年持つくらいの極端なせん定と聞く。東京都の環境局によると、街路樹、公園の樹木にしても、ある程度、自然の樹相を残す形で、せん定をしてほしいとの考えもあるようだ。そうした考えも今後考慮していただければと思う。

このような中で、緑のボランティアはとても大切な考え方だと思う。子どもたちに、動物、植物などの自然のものが、いつ頃、どういう所にあつて、どういう形をしているのか、自然の教育を実践する良い機会だと思う。子ども達には、極端なせん定により不自然な形になっている植物ではなく、自然の樹木の姿を知ってもらいたい。他の部署との調整などもあると思うが、市としては、その辺を考えていただきたい。

事務局：まず、太陽光発電について、日本の再生可能エネルギーはエネルギー全体の約 9.5% で、その内の 6% が水力発電、残りの 3.5% が太陽光などの再生可能エネルギーとなるが、この半分がバイオマス発電、ゴミ処理施設でゴミを燃やしての発電が 3.5% の半分を占めているということになる。太陽光発電は極めて少ないのが実状である。メガソーラーもご指摘のとおり、その普及には課題が多いと思われる。

もう一点、全量買取制度が決まったところであるが、1kW 当たり 42 円でお返しするということがだが、電気料金にその分上乗せされ国民に請求されるなどの課題もある。この制度を先進的に進めてきた諸外国では、制度が破綻している例もあり、今後もこの制度には注視していくことが必要と思われる。

電気のことについては、改めて節電も含め、賢く電気を使用していくことも考えていくことが必要であると思われる。

拝島分水については、確かに生活の利便性等からほとんどが暗渠である。開渠のお話も理解できるところだが、現時点ではその対応は難しい。ご理解いただきたい。

せん定の関係だが、市で樹木のせん定をしたのはご指摘のとおりである。市としては、新たな取組として今年から奥多摩昭島市民の森の事業で、森林インストラクター、樹木匠の方に入ってもらって、せん定教室を実施したところであり、今後、こういった教室を続けていく中で、緑のボランティアとして適切な樹木の管理ができるように、市としての体制作りを進めていきたい。

川勝委員：細かく見ていくと庭木のせん定と森林のせん定は、また違うと思う。樹木がある場合、一本の木だけで成り立っているのではなくて、隣の木との関係もある、そういった様々観点も取り入れた上でせん定教室を実施していただきたい。

事務局：検討する。

川勝委員：昭島駅の北口のロータリーの樹木のせん定についてだが、ムクドリが来て、糞の害、鳴声の害などがひどくてせん定をしたと聞いたが。

事務局：そうだ。2 年続けて集まる形になり、特に糞の害がすごく、収集がつかなくなり、色々

と策は講じたが、せん定ということになった。

久富委員：クリーンエネルギー機器普及関連で、使われていない土地を購入して太陽光発電を行うと費用もかかるが、今すでにある屋上などに設置すれば費用も安いし、送電線関係の費用もかからないと思う。現在の 42 円は高い値段だが、1～2 年で半額、3 分の 1 ぐらいになるという見込みもある。42 円で 20 年間保証するという制度は無理があるようにも思う。ドイツでは 17 円、日本でも 10 円台が妥当なところで、事業者側に新しく参入しやすいように 42 円という値段にしたのだと思うが、この値段も変更されていくのではないかと思う。このような点からも政策的にちぐはぐな面がある。いかに効率的にやるかというところを追求すべきで、発電効率の課題、値段の課題等様々な課題をもう少し整理し、検討し、推進していくといいのではないかと思う。

事務局：屋根に関しては、強度の問題、それを確認した上で学校、市の施設の大規模改修、新築に合わせて進めていくことにしている。総合基本計画でも平成 27 年度までに 70kW その後、200kW まで進めることで計画している。平成 27 年度の 70kW は、はるかに超えるスケジュールで進めている。

発電効率の問題については、環境コミュニケーションセンターに 20kW の太陽光発電が導入されているが、CIS という最新型のパネルを導入していて、発電効率のいいタイプのものである。CIS を導入したのは、東京都では、昭島市が最初で、その後、大々的に東京スカイツリーのソラマチに導入されたと聞く。

会長：太陽光発電については、マーケット化したので企業は当然、価格を下げてくるし、効率も良くなる、まだまだ様子を見ないと一概に何とも言えないと思う。森林を伐採しなくても、休耕田はいっぱいあるが、農地法、農地転用の問題があって簡単にはいかない。ビジネス化しているので、後発の者を商売として抑えようとする企業側の思惑というのもある。純粋な意味での理論的な部分とそれ以外のマーケットの部分、両面から見ていかないといけない。そういった面では、昭島市は地道にやっていると評価できると思う。

また、P45 の生垣を防災に結び付けているのは、すばらしいと思う。ブロック塀は倒れる、危険である。そういった面からの緑の計画が大事で、花がきれい、酸素が光合成で作られただけでなく、防災上、細い道で両側がブロック塀の所は、生垣に変えていくべきだと思う。水路の関係でも暗渠ではなくて開渠にしていれば、防災上役立つ。雑木林でも薪として燃料にもなる。水や緑が防災に役立つという、それはすごく良い発想だと思う。逆転の発想で環境基本計画を強めていただければありがたい。

降旗委員：緑地を市民と管理していることはすばらしい。学校で環境学習を実施しているとの事だが、学校内ではなくて、地域の中の緑を作るとか、学区内の自然を守るとかの事例はあるか。

事務局：エコパークに「緑を育むゾーン」というものがあり、拝島第二小学校を中心に、ドングリを植えたり、ヒマワリの迷路、大きいカボチャを育てたり、原っぱ大会を開催して、生き物、樹木の専門家を置いてツアーを実施したり、体験型の環境教育というものを平成 23 年 4 月から始めている。

降旗委員：その辺は大事な取り組みだと思う。今は、こちらからメニューを提供して実施している状況だと思うが、将来は自分たちでプランを考えて取り組むようになれば、より良い教育になるのではないかと思う。

久富委員：学校の取組みで食育、食習慣の改善というものがあって、実際に品川区では農地を使

って野菜などを育てて、結果として児童の肥満の割合を減らした。小学校のある程度の学年で食育という観点から、小学校やエコパークを使って、地域の住民の協力も頂きながら、そういった形で進めて行けたら良いのではと思う。

降旗委員：農地の価値が、宅地などから見れば低く見られる傾向にあるが、教育的な意味とか価値というものを環境に付加していくことで新たな価値が見出されると思う。教育のために環境を残す必要があるという発想に立つと、単なる経済活動をするための自然の場所ではなくて、多面的な利用、教育に重要な効果があるので、そういった中長期的な戦略をもって進めていただけたらと思う。

副会長：私も機会があり、現場で実際に子どもたちの姿を見たが、カボチャやヒマワリを育てることを子どもたちが嫌がらずに、喜んでやっていて良かった。原っぱ大会で自分たちが植えたドングリが、来年は芽が出る、それを楽しみにしている。

（２）第三次昭島市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）（素案）について

降旗委員：都ではPPSの契約で、東電との調整が難しかったようだが、昭島市では無かったか。

事務局：都のように大規模な施設ではないので無かった。福島事故以降、PPSを利用したいという事業者が増えてPPS電力自体の供給が間に合わない状況であり、導入することが難しい状況にあるが、昭島市では、本庁舎や学校にPPSを導入している。11月末に発表された二酸化炭素排出係数でも、東京電力と比べてPPS電力の方が低い数値になっている。

事務局：本市契約のPPS事業者の電気は、ガスのコジェネレーションシステムによる電力を主力とし、これにゴミ発電と茨城県の風力発電を組み合わせた電力によって供給されている。

馬瀬委員：昭島市役所の本庁舎等の削減目標はわかるが、市民や民間企業、市全体の削減目標等はどうなるか。

事務局：市全体については、昨年度、審議いただいた環境基本計画に内包されている地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の方で記載している。

馬瀬委員：環境懇談会をやる、やらないという話があったかと思うがどうか。

事務局：今年、試験的に一般の公募という形ではなく、事業者の方々に声をかけて懇談会を実施した。試験的なものを積み重ねて、どういった形が良いのか検討していきたい。

事務局：青年会議所が中心になって進めていて、今、意見を集約している段階で、市の側からは意見を言わない、一方的に意見を受け取るという形で進めている。30ページの報告書ができたと聞いている。それを見させていただいて、どういった意見があって、どういった事ができるのか、検証しながら検討していきたい。

事務局：昭島の特徴としては、製造部門は二酸化炭素排出量をかなり減らしている。すでに目標を達成しているレベルである。民生の業務部門を中心に二酸化炭素排出量が伸びている。

降旗委員：伸びるというのは、具体的にはどういうことか。

事務局：電気の使用量になる。

降旗委員：同じだけの電気の使用量でも、先ほどの係数の関係で変わってくるということか。

事務局：その通りである。どんなに努力しても、係数によって報われない場合がある。計画を進めるうえで、根幹をなす問題である。

久富委員：温室効果ガスの削減の取組みについて、良い事例を参考にしたり、組織的に取り組んでいることはあるか。

事務局：組織的にどのように取り組んでいるかについて、具体的には ISO14001 の率先行動として組織の共通の目標として取り組んでいる。ISO の方で、どれくらい温室効果ガスを細かく何課がどのくらい削減したかは分からないが、全庁的に集計を行い、実績は出している。良い事例としては、組織が小さいが水道部が良い結果を残しているので、この事例を活かしている。

事務局：EMS について、行政だけでは出てこない発想を取り入れようということで、内部監査に市民にも参加してもらった。民間の発想で、よくできている部署は自らこういう事を行っているんだとアピールさせた方が良いという指摘を頂いた。このような指摘を今後の改善に活かしていきたい。

久富委員：あるスーパーで、手洗いの水をすごく少量にしてある所がある。良い事例だと思う。全部の施設ではなくて、人が集まる施設については、こういうことをやれば効果があると思う。

会長：役所が率先して、そういった姿勢を示して、家庭でも意識が高まればと思う。役所と家庭では、環境が違うが何らかの参考にしてもらえればと思う。

3 その他

（１）地下水保全について・エコプロダクツ 2012 に参加しました

会長：東京都で水道水のおいしさをアピールしていた。昭島の水はどうか。

事務局：本市の水はご存知のとおり地下水を汲み上げて水道水としており、本市の水も十分おいしいと認識している。

会長：昭島の水の生産コストはどうか。

事務局：コストは低い。

（２）その他

次回日程の案内。3月22日に開催する。

以上